

海外レポート

2005 PUG Annual Conference レポート



2005 PUG Annual Conference

場所: Pointe South Mountain Resort

会期: 2005 年 10 月 15 日~10 月 19 日

WWW: <http://www.pug.com/>

ポリコムユーザーグループ(PUG)が開催する年1回のカンファレンス参加のためアメリカ アリゾナ州フェニックスを10月中旬訪問した。

ポリコムユーザーグループは、ポリコムの製品を使用しているユーザーからなる任意団体。2002年に設立。今年のPUGの代表は、米ファイザー製薬のToni Alonso氏。また、

PUGの幹部には、ゴールドマンサックス、アメリカンエクスプレス、JPモルガン・チェース・アンド・カンパニー、ネブラスカ大学などに現在勤務している人達からなる。彼らは、ボランティアによる活動で、ポリコム製品のヘビーユーザー。このビデオ会議を広めていこうという考えをもち、本業の忙しい合

間をぬってこのPUGの活動を行っている。しかし、通常業務は、PUG事務局がハンドリングしている。

PUGは、現在ポリコム製品を使用している2500名の会員からなる。会員は、個人会員と法人会員、アライアンス会員からなる。個人会員で年間99USD、法人会員で1000USD、アライアンス会員は、750USDか2000USDとなっている。PUG CONNECTIONSの定期発行、SIGs(政府、医療、教育)分科会、会議システムを使った遠隔セミナーの実施、Polycom Learning Center コースの特典割引、そして今回の年1回開催されるPUG Annual Conferenceへの参加割引などがある。また、会員同士の交流の場、またはポリコムへのユーザーフィードバックのための機関としての役割がある。

PUGの年間予算は、2500万円ぐらいとのこと。今後は、メンバーシップの強化、紹介メンバー人数によって会費の特典を提供。Voice of Peopleの役割を果たす。

最近では、アメリカだけでなく、欧州でも毎年2月に開催されている。今後は、アジア開催なども考えているという。

編集長橋本は、今年初めてPUGのカンファレンスにプレスとして参加した。今までなかなか行く機会がなかったが、ポリコムジャパン、PUG事務局、米ポリコムのご協力により、参加するに至った。今年は第4回目という。PUGカンファレンスは、毎年西海岸か東海岸と交互に開催場所を変えて行っていて、去年はフロリダで開催し、来年はフロリダにまた、戻るようだ。

今年の開催場所は、Pointe South Mountain Resort ホテル(写真右上)で開催された。同ホテルのカンファレンスビルや大型テントで行われた。

今年のテーマは、Blazing the trail(先駆者となる)。今年の参加者は、440名だという。PUG会員の参加費と一般参加費は、PUG会員が約600USD、一般が約1000USDということを見ると結構な数の来場者だと思う。ただ、その費用の中には、セッションの参加費だけでなく、朝の軽食、しっかりとボリュームのある昼食、そしてレセプション、資料一式が含まれている。夜は、レセプションやカラオケ大会、そして最終日は午後からジープツアーやゴルフツアーなど盛りだくさん。





参加者でスーツを着ている人はほとんどいなく、参加者は、みなラフなビジネスカジュアルで参加している。PUG カンファレンスは、半分まじめで半分はお遊び、楽しく交流しましょうという面もあり。そしてポリコム CEO ロバートハガティ氏以下各ビデオ、音声、ネットワーク、マーケティングなどのトップが来ていたが、PUG 会員とは、非常にカジュアルにイコールな感じで話しをしたりしている光景をみると、非常にアメリカらしいという感じがする。日本では真似は無理じゃないか。

PUG カンファレンスは、基調講演、テーマ毎のセミナーセッション、スポンサーパートナーのプレゼンセッションなどと同時並行して、35社出展による展示会も行われた。ポリコムのパートナー企業などだ。15日、16日はチュートリアルコースが開催されて、IP 入門やビデオ会議入門、ポリコム製品入門などが行われていた。

PUG カンファレンスは、まず10月17日朝、PUG 代表の Toni Alonso 氏の開会の挨拶から始まり、その後、ポリコム CEO ロバートハガティ氏の基調講演だったが、その前に西部劇の寸劇が演壇のある舞台で始まり、寸劇の最後に西部劇の格好で、ポリコム CEO のロバートハガティ氏がピストルを持って出場、悪役を退治するという内容だったと思う。

その後、西部劇の格好のまま、基調講演を始め、ハガティ氏は、ポリコムの市場での優位性を説明しながら、ポリコム製品をいくつかピックアップしてそれらの特長などを紹介した。



ピストルを構えて悪人をやっつけるポリコム CEO ロバートハガティ氏同氏の基調講演直前の西部劇の寸劇で(PUG 事務局 写真)

ハガティ氏の講演が終わると、マイクロソフトの特別講演で、The future of Integrated Communications と題してマイクロソフトの Zig Serafin 氏から、マイクロソフトの LCS や LiveMeeting などの紹介があった。講演の最後には、先日10月25日にマイクロソフトと日経BP社が開催した RTC フォーラムで紹介された、ビデオが会場で流れた。空港で立ち往生したビジネスマンが遠隔会議で同僚と遠隔ミーティングをし、そしてセミナー会場にいくはずだった講演を、遠隔ミーティングで行うという内容。

その後は、17日、18日、19日の3日間、午前は最初に基調講演があり、その後ブレイクアウトして、テーマ毎のセッションや各スポンサー企業のプレゼンテーションなどがあった。

18日は Alan Parisse 氏の基調講演で、セールスマン心得十箇条みたいな話。19日は、TeleSpan Publishing のエリオットゴールド氏と JHT Conferencing Consultancy 社の Joyce Thompson 氏による、ビデオ会議利用事例を10紹介する内容の基調講演があった。そのうちの一つにポリコムの VSX シリーズのビデオ会議を使った、韓国と北朝鮮に分断された家族がビデオ会議で何十年ぶりか再会する話が紹介され会場も涙で濡れた。



エリオットゴールドの基調講演

基調講演後のテーマ毎のセッションでは、各個別の20-30人規模のカンファレンスルームで、IPネットワークの構築、マネージドビデオサービス、会議システム導入のROI、NATルーターとビデオ会議、ISDNビデオ会議でのトラブルシューティング、リアルタイムアプリケーションのQoSについて、ビデオ会議を使ったトレーニング、製造業流通でのビデオ会議利用事例、NAT/ファイヤ・ウォールの問題、大規模のビデオ会議ミーティング運用方法、VoIPとSIP入門、ユニファイドコラボレーティブコミュニケーション、多地点ビデオ会議の効果的方法、医療/教育分野でのビデオ会議事例、多地点接続装置(導入かサービス利用か)、ビデオ会議とストリーミングのインテグレーション、ビデオ会議のハイデフィニション化とは、など数多くのトピックスでセッションが行われた。

17日の午後には、ポリコム各ビデオ、音声、ネットワークなどの幹部のエグゼクティブパネルディスカッションが行われ、ユーザーとの意見交換が行われた。製品や製品サポートなどについての質問があったが、概して今年に来場者の発言がおとなしいとのこと。同セッションに参加していたTeleSpan Publishingのエリオットゴールドによると、今までのPUGカンファレンスでは結構厳しい意見のやりとりがでていたが、今年は大人しいという。エリオットゴールドによると、ユーザーとの厳しい意見のやりとりがポリコムを強くしてきたのだという。拍子抜けしたようだ。



エグゼクティブパネルセッション

いずれにしても、今年のPUGでは、ポリコムのビデオ会議製品について重要な発表があった。Viewstation、iPower、VSXシリーズの製造ライフサイクルについての今後の対応だ。

意見交換の最後には、PUG代表のToni Alonso氏が、ユーザーはビデオ会議を、テレビと同じように扱いつつある。フェイズアウトする製品であっても12年くらいはサポートを続けて欲しいというような発言内容だった。ポリコムとしては、トータルで7-10年は対応するがという発言はポリコム幹部からあったが、実際のところ、技術革新が激しいビデオ会議でライフサイクルは、他の技術製品と同様短くなりつつあるのが現状だと思うが12年は厳しい感じもする。

今年は厳しい意見がなかったということだが、何もユーザーとポリコム側が敵対しているわけではなく、会場にいてポリコムの人達と、PUG会員の様子を見てるとそういった感じではなく、ここに来ているポリコムユーザーは、やはりポリコム製品に変な言い方が愛着があり、ポリコムに市場のリーダーであってほしいと考えている人が多いということだ。そうでなければ、わざわざ飛行機で全米から参加してこないと思う。お互い信頼関係ができてから対等に意見を交換している。ポリコム側も相手がユーザーだからといって畏まっているわけではない。

参加者の中には、今まで競合メーカーの製品を使いって

いた学校ユーザーが、ポリコム製品は本当にいいのかということを確かめに来たという人もいた。または自分がかかえる会議システムに関する問題を解決しに来た人もいるし、さらには、他のユーザーと交流したい、意見交換したいという人もいた。

あと、トピック毎のセッションのひとつに、今専用端末メーカーで話題になっている、ビデオ会議のハイデフィニション化(HD)についてのセッションがあった。



展示ホール

そのセッションは、米調査会社 Wainhouse Research 社の Ira M. Weinstein 氏、Richard Norris 氏が発表。Ira M. Weinstein 氏は、「HDは今後のビデオ会議の方向性だとは思いますが、HDの導入コストは現状ではまだ高い。帯域も数メガ使うので現段階では企業では実用的ではないのではないか。また、HD対応のカメラ、ディスプレイなどそろえないといけない。おそらく当面は、医療や遠隔教育など、高精細画像が求められる限られたアプリケーションでの需要じゃないか」と述べる。

さすがに関心の度合いが高いのか、トピック毎のセミナーセッションは、ホテルのカンファレンスルームで行われたが、HDセッションは、30人部屋で、参加者で一杯だった。

後、気になったのは、PUG のスポンサー企業の一社で、ストリーミングサーバーなどを開発する Starbak Communications 社紹介のセミナーセッション。発表をしたプロダクトマネージャーが今後のロードマップに若干触れ、

ポッドキャストに対応を考えているという。つまり、ストリームする映像データを iPod ビデオで視聴できるということだ。

また、今回の PUG カンファレンスの間に、ポリコムの MGC シリーズが HD に対応したという発表を行った。また、展示会の会場のポリコムブースでは、HD のデモを行っていた。編集長橋本が見たところ、2Mbps でのデモだったが、カメラは HD に対応していないので、本当の HD のデモではないとは説明を受けた。HD のカメラを準備できていれば HD の完全なデモを見られた。(ポリコム説明員)それでも映像はそれなりに綺麗だったという印象がある。今回は、MGC のみだが、端末は、VSX8000 シリーズが 2006 年初め頃には対応する予定と思われる。



ハイデフィニションビデオのデモ (ポリコムブース)

とにかく、今回初めて参加してよかったと思っている。PUG は、ポリコムの市場での強さの一因だと思う。ポリコム自身も PUG を重視しているというのはよくわかるし、PUG と連携して市場を開拓していこうというのが参加してよくわかった。

PUG は、今後アメリカ、ヨーロッパだけでなく、南米やアジア、太平洋などの各地域で、グローバルな活動を行っていきたいと代表の Toni Alonso 氏が、PUG 紹介のセッションで力強く言っていた。日本でもいつか開催されることを期待するが、日本版に若干アレンジしないといけないかとは思う。

この度の取材では、ポリコムジャパン、PUG事務局、米ポリコムの関係の方々には大変お世話になった。改めてこの場でお礼を申し上げたい。今後も機会があれば是非参加してみたいと思う。

当日の写真などは、以下のURLで参照できる。参加者が楽しそうにしている写真が沢山ある。

<http://www.pug.com/events.asp>



ポリコム CEO ロバートハガティ氏と編集長橋本

CNA レポート・ジャパン 編集長 橋本 啓介
k@cnar.jp
(海外レポート—2005 PUG Annual Conference)